

# 第2回後志管内特別支援連携協議会

令和5年（2023年）3月1日発行

後志管内における発達障がいを含む特別な教育的支援を必要とする幼児及び児童生徒に対し、切れ目ない支援が受けられる体制を整備することを目指し、令和5年2月15日（水）、第2回後志管内特別支援連携協議会を開催しました。本協議会では、今年度の取組の重点に基づき、成果や今後に向けた方策について意見交流を行いました。



## ◆ 令和4年度（2022年度）特別支援教育総合推進事業に係る取組 ◆

### 重点1 全ての教員に求められる特別支援教育に関する専門性の向上

成 果	今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研修等への積極的な参加</li> <li>・管内の特別支援教育リーダー教員や特別支援教育コーディネーターの育成・活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの教員への研修受講の促進</li> <li>・特別支援教育に関する理解を深める校内研修の充実</li> <li>・特別支援学校教諭免許状の取得の促進</li> </ul>

### 重点2 関係機関等との連携強化による切れ目ない支援の充実

（発達支援成果普及事業推進地域：積丹町）

成 果	今後に向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携先や連携方法についての新たな情報の収集・共有</li> <li>・積丹町での「支援ファイル」など、連携のためのツールの重要性の再確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な会議等による支援者間の情報共有</li> <li>・所属機関内での連携と他機関との連携</li> <li>・「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」の作成・活用</li> </ul>

## ◆ 構成員からの意見 ◆

### 重点1 全ての教員に求められる特別支援教育に関する専門性の向上

- ・全ての教員が参加しやすい研修の場や方法、内容を工夫するとよい。
- ・学習支援員など子どもにかかわる職員も対象とした研修があるとよい。
- ・様々な立場の方たちが一緒に研修することで連携につながる。
- ・地域に応じた研修の場を設定するとよい。

### 重点2 関係機関等との連携強化による切れ目ない支援の充実

- ・「個別の教育支援計画」をいつ、どのように活用するか、改めて理解を深める必要がある。
- ・子どもの目の前にいる教員や保護者が情報共有し、組織的に取り組む必要がある。
- ・必要なタイミングで連携が取れるよう、関係機関が日頃から相互に情報を共有しておくとうよい。

報  
告

協  
議

ま  
と  
め

- 全ての教員が特別支援教育に関する知識等を身に付けることは、特別支援教育を基盤とした全ての子どもが互いの違いや個性を認め合う学校、学級づくりにつながる。
- 特別な支援が必要な子どもにかかわる様々な方々が連携することで、子どもの状況の多面的な理解や、よりきめ細かな支援が可能になる。